2025年度　上期

2025年11月21日

みやぎ生協　福祉活動助成金　助成活動報告書

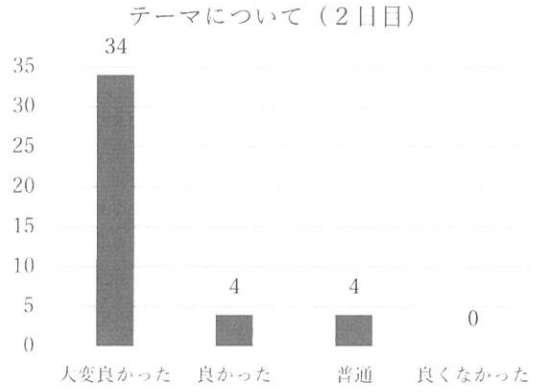
団体名	特定非営利活動法人 みやぎ・せんだい中途失聴難聴者協会
代表者名	瀬谷和彦
連絡先 TEL：090-2988-9106 FAX：	E-mail: harrayesk.prog.8979@outlook.com

1、助成事業報告

助成を受けた事業名	「令和7年度全難聴・全要研東北ブロック大会 in 宮城・秋保温泉」におけるパネルディスカッション「AI音声認識と要約筆記の未来を考える」開催事業
事業の目的	難聴のある人たちは、その程度が千差万別であり、一つの手段のみでは、情報の獲得が困難な場合が多い。例えば、補聴器＋ヒアリングループ＋要約筆記など多くの手段を活用して情報獲得能力を高めなければなりません。 現在、AI自動音声認識の技術進歩により、音声認識力が格段に高まっているが、同音異義語の識別や先天性難聴で発音の精度が落ちる方々の音声の認識力が格段に低下することなどが大きな弱点となっている。この2つの弱点をしっかりカバーできるのが、要約筆記です。しかし、急速に発展しつつあるAI自動音声認識の社会福祉における位置づけが不明な状況にある。 フォーラム形式で行う全体会では、AI自動音声認識と要約筆記のメリット・デメリットを議論し合い、最終的には、様々なコミュニケーション手段を活用して情報を獲得・活用する「トータルコミュニケーション」理念に従い、AI自動音声認識の社会福祉における立ち位置を明確にし、宮城から全国に向けて発信していくことを目的とする。
事業の具体的内容	このプロジェクトは、令和7年9月20、21日にかけて行われた令和7年度全難聴・全要研東北ブロック大会 in 宮城・秋保温泉の一環として、2日目の21日に実施しました。この大会は、東北6県の難聴者団体が持ち回

	りで実施する事業で、相互交流により親睦・研修を深め、難聴者・中途失聴者の福祉の増進に寄与するもので、会場は秋保温泉ホテルニュー水戸屋の曙ホールを会場として行いました。 大会テーマを「集おう！杜の都に　難聴者と要約筆記者の未来を創ろう」とし、AIによる自動音声認識が進歩してきている中、難聴者と要約筆記者間のつながりをいかに密にしていくか、という問題提起をし、協議により結論に導いていくことを目的としています。 1日目は、要約筆記者のための学習会を行い、東北大学の邑本（むらもと）先生より「意図の伝わる文章とは」というテーマでご講義をいただいた。基調講演では、日本財団電話リレーサービス理事長の大沼先生をお招きし、「電話コミュニケーション～グラハム・ベルの電話から電話リレーサービスの誕生まで～「ヨメテル」の活用」というテーマでご講話を賜りました。「ヨメテル」サービスは、今年から提供開始されたもので、難聴のある方が電話に向かって相手へ話をし、相手からの返事を文字に変換して本人に伝えるシステムです。文字に変換するしくみが二つあり、一つはオペレーターによる文字表示、もう一つはAI自動音声認識による文字表示です。どちらが使いやすいのかについてはまだはっきりしたデータが存在しません。 そこで、翌日 21 日（2 日目）に行われた全体会（9:00~11:00、曙ホール AB 会場）では、「AI 音声認識と要約筆記の未来を考える」というテーマを設定し、自動音声認識に詳しい兵庫県難聴者福祉協会の原氏をお招きしてパネルディスカッションを行いました。 パネリストの陣容は以下の通り。 ・要約筆記者養成に関わっている立場から：畠山 修氏（みやぎ・せんだい中途失聴難聴者協会副理事長） ・AI音声認識専門の立場から：原 弘幸氏 （兵庫県難聴者福祉協会副理事長） ・要約筆記者を利用し、かつAI音声認識のユーザーの立場から多田健一郎氏（みやぎ・せんだい中途失聴難聴者協会理事） ・要約筆記者の立場から：福元智美氏 （全要研宮城県支部支部長） さらに、会場のみなさんを7人前後の10グループに分け、ブレインストーミングによるグループディスカッションを行った。原氏進行の下で、要約筆記支援をテーマに「As is／To be　現状と理想のギャップ」を語り合い、未来に向けて AI や要約筆記者とどのようにお付き合いすべきか、議論していただいた。

活動の開始から完了までの流れ	**◎準備開始から大会当日まで** 本プロジェクトは、東北ブロック大会と並行して昨年12月から実行委員会を立ち上げて開催準備を始めた。 開催スケジュールは以下のとおりである。 1．令和6年12月21日　2．令和7年1月12日 3．令和7年2月22日　4．令和7年3月1日 5．令和7年4月19日　6．令和7年5月24日 7．令和7年6月21日　8．令和7年7月19日 9．令和7年8月9日　10．令和7年8月30日 11．令和7年9月4日 その他、ホテル下見は8月23日、大会袋詰め作業は9月13日に行った。 このうち、第9回実行委で講師陣や全体会スケジュールを確定し、第10回ではディスカッション方法を決め、第11回ではグループディスカッションに必要な消耗品類を決定するなど、全体会に重きを置いた実行委であったため、情報保障費を3回分6万円で計上した。 **◎9月20日（大会1日目）** 1日目は、全体会でのグループディスカッション参加者数を確認し、7人前後の10グループに分け、翌日朝、会場で名簿を貼りだした。 グループディスカッションの進行には、ファシリテーターの存在が必要である。ファシリテーター候補を選び出し、各人の了解を得、21日朝、進行方法について事前打ち合わせを行った。 **◎9月21日（大会2日目）** パネルディスカッション後、参加者全員にグループディスカッションの進行手順について説明した。 ディスカッション中は、パネラーが各グループを回り、アドバイスを行った。 ディスカッション後、10グループのうち、4グループに討論結果を発表していただいた。 最後に、原氏は、AIが要約筆記の代わりになるというような時代はいずれ来る。それでも解決できないのは、「人の温かさ」である。AIをうまく有効利用して、人間とのコミュニケーションの情報保障の一つとして取り組んでいただければありがたい。一方、逆にAIを使いながら要約筆記できるのではないかという希望も持てる、とまとめた。 以上で、全体会を終了した。情報保障は要約筆記に加えて手話通訳の派遣を依頼した。さらに、盲ろうの方の参加があったため、介助者の派遣も依頼した。

活動の成果と教訓	**◎大会後のアンケート調査** 二日間を通して、申し込みによる参加者は99名であった。このうち52名に大会アンケート調査に協力していただいた。 この結果、グラフにあるように全体会テーマについて回答者42名中80%以上が大変良かったと回答した。  また以下のような付記意見があった。 ・２日目はもっとゆっくり話したい内容でした ・ワークショップの議論の場の時間が少なく残念だった ・資料はまとめてとめるなりしてくれれば助かった。ばらばらで探すのが大変！ ・ファシリテーターを実行委員がやるなら、少し練習を・・・やれる人がいるならグループの人に頼んで良いと思います **◎グループディスカッションの重要性** 近年、様々な業界でグループディスカッションにより、新しいアイデアを出したり、発想など方針を定めたりする目的で活用されている。 本実行委員会では、グループディスカッションを初めて体験される方が多く、ファシリテーターを前日に決めるなど準備が不十分なところが見受けられ、大きな反省材料となった。 しかし、福祉の世界でも新しい発想、アイデアは欠かせないほど重要であり、今後もこの手法を活かしてより効率的な福祉活動につなげていくことができればと考えている。また、他県からの参加者にも初体験の方々が多く、大会終了後各地に持ち帰って実践していただければと考えている。

今後の展望など	**◎AIと要約筆記の今後の在り方** 今回のディスカッションでは、「AI 音声認識と要約筆記は互いのメリットを生かすことで共存可能」という結論に達し、仙台から全国に向けて発信することができた。 では、今後どのように共存させるべきか、要約筆記者養成課程にAIをどのように関わらせるべきか。多くの課題が残されている。 要約筆記者には通訳だけでなく、難聴者の権利擁護を擁護する役割も担っている。これはAIにはできない。難聴のある人たちの全国組織として一般社団法人全日本難聴者・中途失聴者団体連合会（全難聴）、要約筆記者のための全国組織として、特定非営利活動法人全国要約筆記問題研究会（全要研）があるが、これらの組織に働きかけることで、AIと共存した新しい要約筆記者像が生まれてくる可能性に期待したい。 **◎様々な障害のある方々とのつながり（合理的配慮）** また、全体会で特筆すべきは、盲ろうの参加者も、グループディスカッションに参加できたことである。このケースは全国でも珍しい方に入る。しかも、その参加者はファシリテーターとしての役割も果たした。車いすの方の参加もあった。つまり、本大会は他の障害のある方への合理的配慮を実践できた大会でもあった。 今後は、様々な障害のある方が一堂に会して共通の問題に対し、グループディスカッションを通して互いに議論し合える形を目指していけるのではないかと考えられた。

２、助成金使途報告書

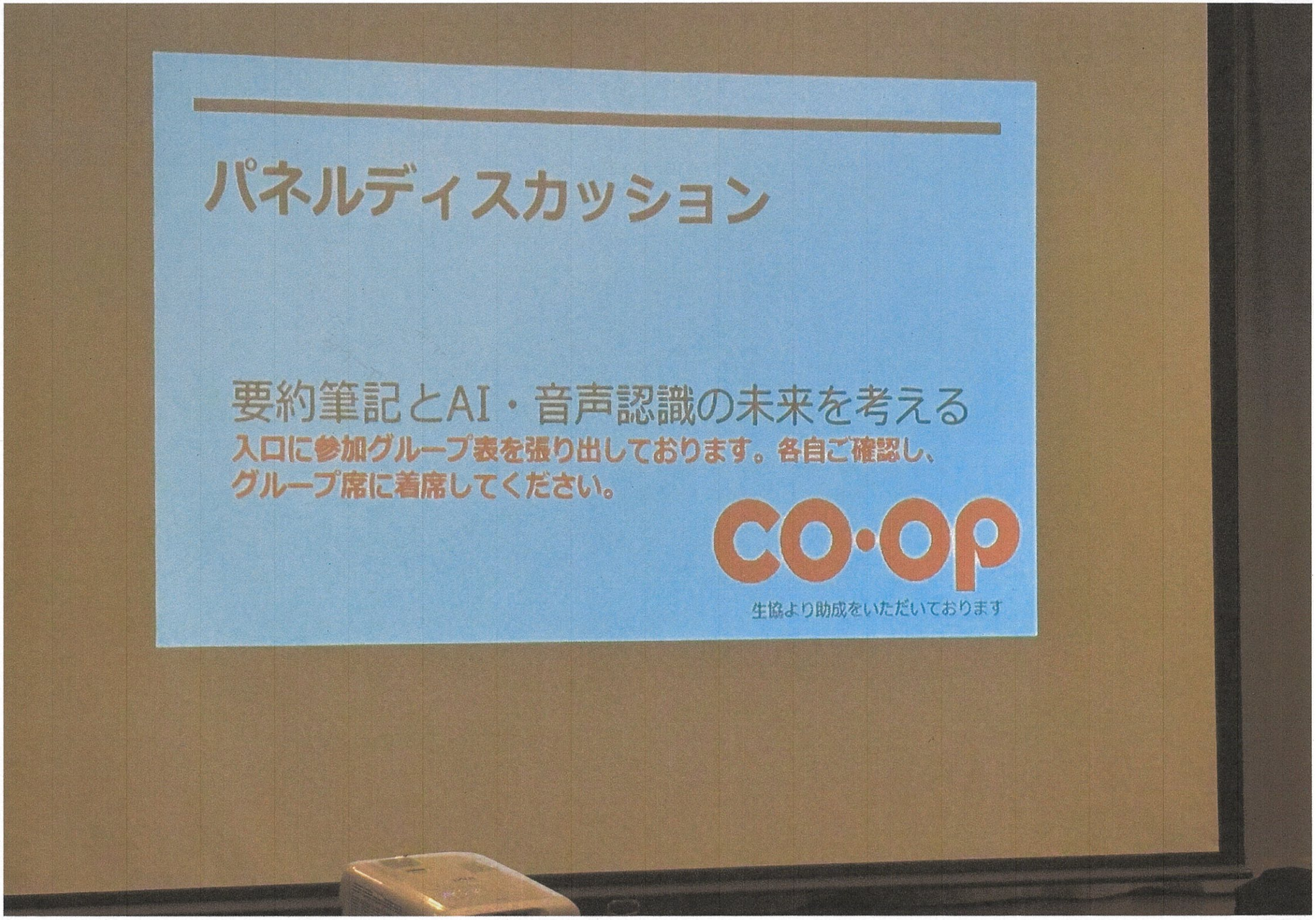
■　収入の部

確保した資金内容	金額（円）	備考
福祉活動助成金	100,000	
自己資金（含寄付金）	30,790	
合計	130,790	

■　支出の部

費目	内容	予算額（円）	実支出額
当日情報保障費	要約筆記、手話通訳、盲ろう介助員派遣費（助成金より使用、領収書あり）	75,000	70,790
実行委員会情報保障費	要約筆記派遣費（助成金より使用、領収書あり）	75,000	60,000
合計		150,000	130,790

＊用紙が足りない場合は他の用紙などで補ってください。


パネルディスカッション
要約筆記とAI・音声認識の未来を考える
入口に参加グループ表を張り出しております。各自ご確認し、
グループ席に着席してください。
CO·OP
生協より助成をいただいております


全盤詰東北ブロック大会


そこを明確にして、要約筆記の支援のありかた、方法を考えたい。
言語化にあたっては、ふせんに記載して。
表を見てほしい。